

旭川歯科学院専門学校 シラバス作成ガイドライン

1、シラバス作成の基本方針

本校は、歯科衛生士法に基づき、歯科医療従事者としての高い倫理観を養うと共に口腔衛生の専門職として高い感性と豊かな見識を備え、今日の社会における国民の福祉向上に寄与せしめる人材を養成します。この教育理念及び教育目標を具現化し、実践的な教育により幅広い領域で活躍できる人材の育成が、我々の目指す教育です。

これに従い、次の各項目が達成されるように履修指導を行います。

1. 基礎的な知識を習得している。
2. 口腔の健康を支援する技術実践力を習得している。
3. 社会人また歯科衛生士として、他職種と連携・協働できる能力の習得と患者等と関われるコミュニケーション能力を習得している。
4. 地域社会との関わりを理解し、地域との連携や地域貢献できる能力を習得している。

本校での3か年間で、上記項目についての基本的要件を満たし、社会で活躍できる人材を育成するにあたり、基礎分野・専門基礎分野・専門分野をバランスよく配置し、現代社会に必要なコミュニケーション能力と論理的思考力の基礎を養います。また、社会人として豊かに生活するための創造性を培い、更に専門的知識や理論及び歯科衛生を取り巻く保健・医療・福祉についての知識や理論を技術と統合して歯科医療現場の実践につなげられるような人材の育成を目指しています。

なお、アドミッションポリシーとして、次のような能力と資質を持った学生を求めます。

1. 医療に携わる職を目指す者として、心身の健康を大切にできる。
2. 生涯にわたり学び、成長し続ける強い意志を持っている。
3. 他人を理解し、何人とも良好な人間関係を築くことができる。
4. 入学後に学びを継続できる基礎学力を持っている。

2、シラバスの共通記載項目

上記の基本方針に基き、シラバスに記載する共通項目を次のように設定します。

(1) 授業科目の基本情報

- ①科目名 ②単位数 ③授業時数 ④対象学年 ⑤開設学期

(2) 担当教員等

- ①担当教員名 ②専任教員、外部講師の区分

(3) 授業内容等

- ①授業到達目標 ②授業概要及び授業計画

(4) 授業形態

(5) 使用教材教具・参考文献・配布資料等

(6) 成績評価法

- ①定期試験、出席状況及び授業態度等、その他（小テスト、提出物等）

(7) その他

3、各項目の解説

(1) 授業科目の基本情報

- ①科目名 … 学科課程単位一覧表に記載された該当科目名を記載します。
- ②単位数 … 学科課程単位一覧表に記載された単位数を記載します。
- ③授業時数 … 学科課程単位一覧表に記載された各学年授業時間数を記載します。
- ④対象学年 … 学科課程単位一覧表に記載された履修年次を記載します。

⑤開設学期 … 年度時間割一覧表に記載された前期・後期を記載します。

(2) 担当教員等

①担当教員名… 年度時間割一覧表に記載された担当教員名を記載します。

②専任教員、外部講師の区分については、担当教員名の欄に（ ）書きで専任・講師の区分を記載します。

(3) 授業内容等

①授業到達目標

この授業を履修し、学習目的を達成できた結果、どのような知識・能力などを修得できるのか、観察可能な具体的内容を記載し、その内容については、教育目標等との整合性を保つ必要があります。目標に達しているかどうかを観察測定することが、成績評価に結びつきます。なお、到達目標を記載するにあたり、下記の2点に留意する必要があります。

ア) 学生が、授業終了後に「こんなことができる」「こんなことを知ることができる」というような身に付く能力をイメージできるように、記載することが重要です。また、学生がこのイメージを見て、「自分でも達成できそう」と思えるものにする必要があります。

イ) 可能であれば、「到達目標」は達成されるべき内容を、知識・能力などの分野に分けて記載します。

②授業概要及び授業計画

授業の全体を把握できるように、授業の概要を記載します。学生にとって授業の概要を理解しやすくするため、授業で扱う主なトピックの係るキーワードを記載します。

授業計画は、学生の予習や復習の参考にもなるよう、授業の進度に即した各週（回）の具体的な学習内容を記載します。以下の要素を満たしていることが求められます。

ア) 「授業の到達目標」に対応させて記載されている。

イ) わかりやすい「流れ」で、要素が適切に選択・配置されている。

ウ) 1単位の講義の場合、8回分の授業が確保されている。

(4) 授業形態

講義、実習等の区別を記載します。

(5) 使用教材教具・参考文献・配布資料等

教科書を使用するかどうかを記載し、書名、著者名、出版社等を明記します。参考文献として紹介する資料がある場合も同様に明記します。その他の配布資料がある場合も、その形態や配布時期等について記載します。

(6) 成績評価法

当該科目の到達目標に対する達成度を、どのように測るかを記載します。学生が達成目標に到達したかどうかを判断できる方法と基準を用いることが必要です。そのため、以下の3項目について記載する必要があります。

ア) 評価方法 … 小テスト、課題、定期テスト、レポート課題等を、提出期限や試験の時期と併せて記載します。学生が計画的に準備を始めることが出来るためです。

また、授業内容に対する質問等を義務付ける場合には、その回数や成績評価への反映方法等についても記載します。

イ) 割合 … 複数の評価方法を使用する場合には、それらの配分割合を明記します。

(例) 定期テスト70%、小テスト・レポート課題20%、授業態度等10%

ウ) 評価基準 … 到達目標に達するまでの経過点をいくつか示し、各段階での採点基準を明確に記載します。複数の評価方法で測定した結果を総合的に判断する場合でも、それぞれの測定結果をどのような基準で判定し、それをどのように総合的に判断するかを、可能な限り記載します。なお、評価基準は測定可能なものとし、学生から採点根拠を照会された場合、明確に回答できるようにしておくことが必要です。

(例) レポートを評価方法としている場合

・「適切な問題が設定されている」 ・「設定した問題の背景を説明していて、どのような課題が存在しているかを指摘できる」

4、様式

科 目 名	単 位	時 間	学 年	開校期
担当講師	(専任教員・外部講師)			
1 授業目標				
2 授業計画				
回	項 目	内 容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
3 授業形態				
4 教科書				
5 参考図書・資料				
6 評価の方法				
7 その他				